



「天気予報のいま」
シリーズ新しい気象技術
と気象学

新田 尚・長谷川隆司 著
東京堂出版, 2011年12月
152頁, 2400円(本体価格)
ISBN 978-4-490-20756-9

「シリーズ新しい気象技術と気象学」全6冊のうち、トップを切って「天気予報のいま」が刊行された。このシリーズは、最新の天気予報のつくり方、出し方をわかりやすく、楽しく解説することをコンセプトに書かれている。本書は、タイトルのとおり最新の天気予報に関する技術(気象観測技術や予報技術など)を網羅的に紹介しており、21世紀になって実用化された新しい気象予報技術である「竜巻発生確度ナウキャスト」や「雷ナウキャスト」などもわかりやすく解説している。

本書は専門書ではないと著者が記しているとおおり、気象に興味を持った読者が気軽に最新の気象技術に触れられるように簡便にわかりやすく書かれている。読者の対象は大学の教養レベルの知識を有する人と察するが、数式をほとんど使っておらず、理科好きの高校生でも十分読める内容であると思う。

本書の目次は以下のとおり。

1. 天気予報
 - 1.1 天気予報の始まり
 - 1.2 総観的天気予報と数値予報の導入
 - 1.3 天気予報の種類
2. 短期予報
 - 2.1 短期予報の作業の流れ
 - 2.2 台風予報
 - 2.3 天気予報ガイダンス
 - 2.4 確率予報
 - 2.5 天気予報に用いられる気象観測資料
3. 局地予報

- 3.1 局地予報の特徴
- 3.2 ナウキャスト／短時間予報
- 3.3 降水ナウキャスト
- 3.4 局地モデル
4. これからの天気予報と防災情報
 - 4.1 アンサンブル予報の導入
 - 4.2 気象災害と災害情報
 - 4.3 気象情報の流れ
 - 4.4 自分の身を守るために
5. さらに天気予報について学ぶために

私は是非とも防災関係機関の方々には本書をお勧めしたい。住民の生命と財産を守る活動に従事している役所、警察、消防署の職員、自治防災組織のリーダーには天気予報、特に防災情報が作成されるしきみを理解してもらいたいと思っている。気象庁が発表する警報注意報や各種防災情報、メディアから伝えられる気象予報士の気象解説等を受け取り、防災情報の内容を吟味し、的確な判断をするためには、正しい知識を身につけている必要がある、さもないとばいざという時に適切な行動ができないことが想定される。本書は防災情報の特性を学ぶことができる最適な参考書でもある。

平成22年度から気象庁と日本気象予報士会が合同で「局地的な大雨による被害軽減に向けた取組み」のプロジェクトを実施している。このプロジェクトは、地域の気象予報士が地域の防災リーダーや住民に対して、地域で発生する局地的な大雨から身を守るためにどうすれば良いかというテーマで、防災気象講演会を実施している。そこで、防災気象講演会の講師となる気象予報士が講演の際に、本書をうまく活用して知識の普及に努めてもらうのも一案かと思う。

今年10月までに続刊5冊が刊行予定とのこと。楽しみである。

(日本気象協会・日本気象予報士会 平松信昭)